

日野病院の地域医療総合教育研修センターだより

・医学生の臨床実習2での充実した（慌ただし）日々

今年も鳥取大学生がお世話になり、ありがとうございます。

今年の4月から医学科5年生が毎週2～3名、さらに5月から8月上旬まで6年生が延べ6名、日野病院で実習を行っています。日頃から、学生には職員ならびに利用者の皆さまから「良い医師になってほしい」などの励ましの声をいただき感謝しております。

今年の6年生には、外来に時々出てもらいながら、病棟で同じ患者さんを入院から退院まで担当してもらいました。最初は四苦八苦している様子でしたが、徐々に私たち担当医以上に患者さんの背景、人となりなどを深く理解しながら、自分で広く深く考えるようになっていく成長のスピードに私たち教員は驚かされました。また、病院職員の方々、住民さんと長く深い関係を築き、時には患者さんのお宅、病院周辺にお邪魔しながらとても貴重な体験ができた、6名の学生は振り返っていました。



6年生に5年生を指導してもらいました

日頃、学生が受け身で取り組むことの多い医学教育ですが、今回、学生に責任感を持って診療してもらい、疑問に思ったことを必ず自分で調べて患者さんに還元する仕組みで、4週間続けたのが大変良かったのではと考えております。

現在、計3日間お邪魔している5年生にも日野病院で貴重な経験を積んでもらえるよう、私たち教員は日々試行錯誤を行っています。今後とも、ご指導、ご協力をよろしくお願いいたします。

鳥取大学医学部地域医療学講座
准教授 浜田紀宏

・学生たちが集まるサテライトセンター日野病院

日野病院に地域医療総合教育研修センターができて3年がたちました。今年4月からは、鳥取大学医学部5年生の臨床実習1を受けるようになり、毎週のように日野病院に医学生がきています。そして、4月からは総合診療外来だけでなく病棟患者さんも私たちが担当するようになりました。当初は、教室メンバー複数交代で、外来と病棟対応をおこなうため、入院患者さんや家族が混乱されるのではないかと不安でしたが、今のところ大きなトラブルもなく順調にすすんでいます。これも、日頃バックアップいただいている病院スタッフや事務職、そして何よりも住民の皆様のおかげであつたことと考えています。実際に、総合診療外来で患者さんをみた5年生、病棟で入院患者を担当した6年生、いずれも素晴らしい感想を残してくれています。

「初診患者さんをはじめ自分の力で診ました」「大学では、指導医の姿を見学するだけでした」「1ヶ月間、患者さんを担当して愛着がわいてきました(6年生)」などなど。たとえ学生であっても、「自分が責任をもって患者さんと対峙する」という経験なくして、真の意味での成長はないと感じます。大学病院の臨床実習では、どうしても一歩ひいた形での見学主体になってしまがちです。しかし、日野病院はちがいます。自分が主役として責任をもって患者さんを診る。この貴重な臨床実習は、日野病院のサテライトセンターだからこそできる教育です。今後とも、地域医療総合教育研修センターでの学生教育がさらに充実しますように、病院スタッフならびに住民さんの変わらぬご支援をお願いしたいと存じます。

鳥取大学医学部地域医療学講座
教授 谷口晋一



センターについて